



福祉と住環境を考える

ふくてっく

2014年6月  
第86号

特定非営利活動法人

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC・ITM 棟 11F エジレスL  
TEL 06-6614-6800  
mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

『青葉園』  
講師 清水明彦氏

ふくてっく四月学習会

一九八一（S五五）年青葉園開所前の背景から紹介する。当時、重症心身障害児を持つ親はいくつもの病院を回つても、この子は一〇才位までの命、せいぜい大事に家で育てなさいなどと言われていた。親たちは保健所で療育相談を受けていたが、待合室での出会いから自然と親のネットワークが形成され、そうした中から、この子達の行く場を創ってほしいという運動が芽生えた。

その運動により西宮において先駆的な事業としてわかば園（就学前の通園施設）がS四二年に開所、その後の西宮市障害者施策を形作ってきた。障害児の療育ではポイダ法やポバース法が有名だが、実はわかば園はこれよりも古い。

わかば園の子どもたちも開所まで年月がかかったので年長組を形成する中で、なんでこの子達は普通に学校に行かれない（当時は「就学免除」の扱いだった）のかという声が高じて、模擬学級を創るなどの就学運動が展開され、昭和四六年に西宮養護学校が受け入れを始める。東京が早いといわれているが、実は実体としては西宮が日本で最初だ。本人たちは一六〜一七才の頃に、小学校高学年や中学に編入され、高等部を創って追っかけることに

なる。こうして一九七〇年代後半になると、重症心身障害者が卒業後どうするかということが問題になる。そのころは重心が地域で生きてゆく制度や概念がなかった。ようやくやくびわこ学園ができていたころである。

卒業したら、行き場もなくなりにこもりきりになるのか？入所施設に入ろうとも思わない。とにかく集まるうと、拠点創りが始まった。こうして一九八一（昭和五五）年に、西宮市が独自の通所施設として独自補助による事業を西宮市社会福祉協議会に委託、法外施設「青葉園」が誕生した。その四年後に、総合福祉センターの別館に納まつて今日に至っている。現在、六二名が通所。昨日新たに四名が加わった。多くが五〇〜六〇歳代に向かっていく。最高齢は七〇を超えており、還暦を祝う会、ついに古希を祝う会が催された。そろそろ親のことが心配になってくる。既に一五人の利用者が親元を離れて自立している。二四時間の支援の輪のもとでの自立生活の人九人。ケアホーム暮らしに重度訪問介護（月四百時間）を利用している等、六人。

このように、青葉園は法外施設として、すなわち法的縛りにとらわれず、純粋に本人が生きて行くために必要などころに事業展開してゆく中で、いろいろなものを生み出してきた。法制度の変化に伴い、身体障害者通所授産施設を経て、生活介護事業所となっている。その運営費は年三億数千万円。本事業はもはや

西宮市施策の柱とも言うべき存在となった。地域自立支援協議会での論議を施策に反映するところが西宮市政のえらいところだ。一九八二年に基本理念を文書にした。私たちが目指しているのは、単に「自分でごはんが食べられる」とか、「服が着られる」といった、そんな更生訓練をやることではない。重心の子たちを預かって親の苦勞を助ける、という事でもない。一緒に活動しているのだ。そうした思いを込めて、私たちは「青葉園」を創っている。主体が存する本当の意味は、彼らそのものが重要な公共的・社会的資源であることであり、それゆえに三億数千万円を当てているのだ。重症心身障害者の役割とは、彼らこそが社会の主体者であり、住民中の住民であることを示すことにある。医療的ケアは、医療を必要とすることを理由に生活水準を下げないことを必然とする。地域住民とともにすすめてきた、「青葉のつどい」は三〇年営々と続いてきた。

地域移行とは、施設から地域に出すことではない。地域にどうしてもらえるかでもない。本人が地域にどう関わるか、地域での役割をいかに持つかである。地域で暮らしと一人が地域に役割を持つ」ということなのだ。従って「まちづくり」が私たちのテーマとなる。

今、新たに（仮称）共生会館を創ろうとしているが、ここでは広い意味で社会的孤立に焦点をあて、そうした生

昨年7月に発足 20周年の佳節を迎えました

8月2日(土)には、20周年を祝う会を開催します。

ご参加を  
お待ちしております。



萩野 光

活困窮からの脱却をプロデュースする。生活ホームや集いの場等、様々な仕掛けとともに、会館で完結することなく地域とともに積極的な取り組みを推進して、まさに福祉コミュニケーション製作実験場として、全市に普遍化してゆきたい。

発足当初の青葉園と現在の青葉園 変換は阪神淡路大震災にあった。震災前はやや青葉園中心であったが、震災後は本人中心主義が確立している。自立支援計画は、必ず本人を中心において、その前でアセスメントを行い、本人が何に向かおうとしているかを確認する。西宮市におけるサービスマン等利用計画は、全国で標準になつていく。オームズにはならず、独自の手法と形式で、本人の希望を紡ぎ出してゆくのである。これには事業所と基幹型相

（記録・中北 清）

# こむねっと部会

## 自立支援センター ぱあとなあ 若江東

ぱあとなあ若江東の取組は2012年4月に遡る。亡くなった楠敏雄さんから、東大阪にぱあとなあという、当事者主体の障害者支援団体が事業所移転物件を探していて、どのように利用できるか苦労しているのので力になってやってほしいと頼まれた。

さっそく、東花園でケーキの工場兼ショップだった物件を調査し、内容的にも申し分なかったので進めようとしたところ、家主が医師の開業拠点にという話に乗ってしまい頓挫した。続いて同年11月、若江東に昭和30年代築の空き工場があるとのことで調査したところ、奇跡的に建築確認済証があり話は前進。約1600㎡の敷地に工場が大小合わせて6棟建っており、このうち2棟はそれぞれ工場として稼働している。残りの4棟をまとめて借り受けて障害者生活介護ほかの事業に活用する計画であるが、用途変更や既存の稼働中工場との敷地区分、そして開発許可など困難な申請課題が立ちはだかる。これらを正式に処理しようとしても、建築確認済証はあるものの検査済証はなく、難しい対応を余儀なくされた。

しかしながら、東大阪建築指導課との協議の中で、建築基準法上の建物用途は、障害者福祉施策上の事業所指定とは別個に、実際の用途に即して判断して良いという観点から、障害者の日中活動の実体が例えば印刷とか木工など「工場作業」と判定できるならば、あえて用途変更と解釈しなくてよい、という望外な見解を得ることができた。建物が安全に使用できるものであるかについては、建築士の責任において厳格に調査診断するという前提で、12条報告なども不要という取扱いとなつて、改修計画は一気に軌道に乗ることとなった。以降、ぱあとなあ代表地村氏以下メンバーと施設見学を重ねながら合議を重ねて改修設計を練り上げ、12月に3社による入札で施工者を決定。本年1月8日に着工、4月末に竣工することができた。



After

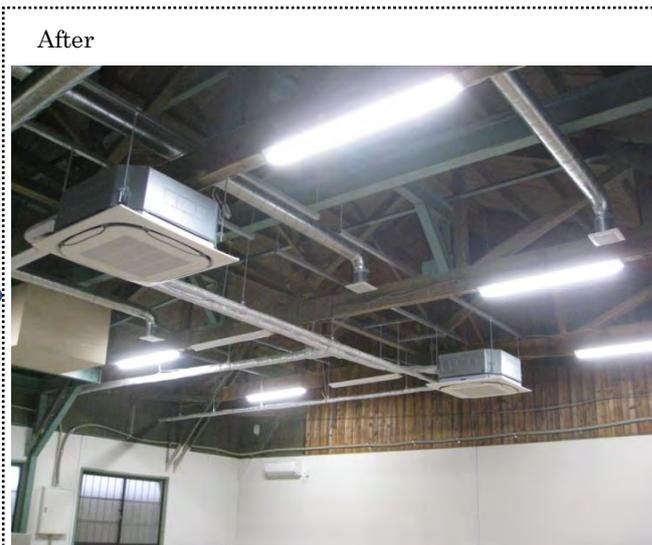
外観は高圧洗浄  
入口は自動引き戸に改造  
庇・スロープを設置



Before



Before



After



古びた木造スレート葺きの工場は外観こそ大きな変化はないが、内部は見違えるような環境を整えている。事業所としては、障害者生活介護・地域活動支援センターⅢ型・相談支援・居宅介護のほか、防災拠点を兼ねる地域交流サロンやレスパイトその他多様な活用を展望した自身体験居室を3室構えている。また、まだまだ未活用余地を残しており、今後の構想として野菜の水耕栽培やリサイクル事業なども検討課題だ。

障害者の社会活動を拡大してゆくには、従来の障害者支援の概念にとらわれず、実業的発想も求められており、例えば、相談支援事業を発展させて障害者の住環境改善の取組をメニューに加える計画もある。自身体験室においては、障害者を対象とする住環境改善の研修や体験などの試行も可能である。また東大阪という立地に鑑みて、町工場との協働もビジョンに入る。そうした取組については、ぱあとなあが単独で実施するのではなく、そこにこそ、ふくてっくが協働することによる意味と可能性が、今、船出の時を迎えている。

(中北 清)

# 東大阪部会

## 高齢者疑似装具の体験



『東大阪市高齢者・重度身体障害者  
住宅改造費助成事業講習会』

3月27日施工事業者対象の講習会が東大阪市庁舎18階会議室にて実施されました。

今回の講習会は動作検証の必要性を理解していただく為、身体機能の低下や後遺症による不自由さを体験していただきました。



### 『部会で高齢者疑似装具体験』

東大阪市の研修会に先駆けて、3月15日東大阪市社会福祉協議会より体験装具をお借りし、インストラクターの指導の下、装着の仕方を学びました。

右片麻痺疑似装具の体験では、移動や立ち座りの不自由さを痛感させられました。

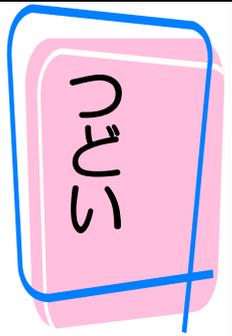


### 『ふくてっく定例会 高齢者疑似装具体験』

5月10日定例会にて、大阪市社会福祉協議会より高齢者疑似体験装具をお借りし、当会会員による高齢者疑似体験を実施しました。

会場である3階から1階まで階段や暗い廊下を歩きましたが、平均年齢60歳を超える会員の高齢者疑似体験？は、会員の元気を裏付ける結果で終わりました。ただ明るい所から暗い所に移った時、空間の認知度が急速に低下する等の声もあり、歳と共に暗順応機能が低下している事は再認識していただきました。

(清水麗子)



二〇一三年二月一四日

里山遠足 その一

「生駒いいもり里山サポーターズ」西川さんの協力により、『里山』へ遠足に行ってきました。ふくてっく会員五名（池端、小川、鎌田、川北、樋口）が参加したのですがそこには大変貴重な体験が待っていました。少し肌寒い事を予測していたのですが、当日は日差しもあり絶好の遠足日和となりました。

はりきって集合場所であるJR学研都市線「四條畷駅」に午前九時半に集合し、西川さんの案内で里山へ出発。

道中、四條畷に関する歴史やいわれの説明を聞きながら徒歩約二〇分、急な坂を登り民家の脇をすり抜け山小屋になんとか到着。途中、現地のおばあさんが手押し車を押しながら急坂道を降りてくるのを見た時は思わず「大丈夫ですか？」と声を掛けてしまいました。が、現地の方は慣れたもので逆につらい顔の私達を見て「大丈夫ですか？」と心配されてしまいました。



大木伐採



枝打ち



童心に戻って



山小屋に着いて、まずこの里山を管理する事になった経緯や現状に至るまでの苦労話を聞き、これからも手を加えていかなければならない事を知り、何かお手伝い出来る事はないかと感じました。その後、西川さんからスケジュールの発表があり、午前中は山の管理作業のお手伝い、昼食をとった午後からは山の材料を使つてのものづくり(クラフト)を体験し、時間があれば山歩きとして山の中腹まで登山？をするとのこと。

「この木を切りましょう！」との事。一同びつくりしたが「これは面白い！」「やろう！」と安易に張り切ったのですがこれがなかなか大変。木を倒す方向を決め、のこぎりの刃を入れる位置と角度を決め、一気に川北さんののこぎりがギリギリと力一杯大木との戦闘開始です。

順番を変わりながらのこぎりを引くが斜面での作業と何より慣れていない事から徐々にのこぎりの先行きが怪しくなり：途中修正しながらあつちからこつちから刃をいれ、最後は紅一点がんばっていた鎌田さんに倒してもらおう！と声をかけあつていました。しかし小川さんが切っている途中でミスッ、ミスッと鳴り、まだ三分

の一段はつながつており倒れないだろう、ギリギリまで；と思つているうちにバサバサとスローモーシヨンの様に大木が傾き始め、つながつていた部分はぱつぱつ折れる形で倒れました。その後はみんなで枝打ちをして横たわつたままの大木をみて一同「疲れた！」と充実感たつぷりの汗を流し、小屋まで疲労感たつぷりで戻り、さて楽しみな昼食の時間となりました。

ドラム缶を半分に切つたものに木をくべ火をたくとその上には銀紙に包まれた塊が。その他にも栽培しているしいたけを焼き、銀杏も炒つて各自持参の弁当を広げてビールで乾杯。作業の後の一口は格別なものとなりました。

午後からは事前に山から切りだした竹を使ってシヨベルを作る工作を体験しましたが、これが簡単そうで意外と難しく悪戦苦闘。シヨベルが出来た人の中には竹を半分に分けて竹皿を作成している人もいました。

作業が終わり大事な道具の手入れをしていると：昼食時に火にかけていた銀紙の塊がべールを脱ぎ豚肉の塊が現れ、最高においしいものがいただけました。

そして最後は山中へ散策に向かい、途中イノシシを捕まえる仕掛けを見たり、そのイノシシが作物や球根をあさつた後を見ながら登つていきました。道中木の種類、花の説明、果実の話といろいろと勉強になりましたが、ふくてっくのみんなも良く知つていて意外な一面？を見ることができました。途中子どもたちが遊べるようにと木の枝に縄をかけブランコがありましたが、大人も童心に戻り恐ろしく喜んで体験していました。

いたる所に仕掛けがあり、また自然の恵みを肌で感じながらいろいろな体験と学習が出来ることを実感しました。

小屋に戻り本日お世話になった「生駒いいもり里山サポーターズ」西川夫妻に一日のお礼を述べ、「また、遊びに来ます」と山を後にし、四條畷神社が近くにあるので参拝して帰りました。皆さんお疲れさまでした。

二〇一四年四月二六日

### 里山遠足 その二

一二月に引き続き春を感じに「生駒いいもり里山」に二回目の遠足に行きました。今回も天候に恵まれ少し動く汗ばむ様な日差しが降り注いでいました。

今回の参加者は一〇名（池端、和泉、稲住、小川、鎌田、島村、寺岡親子、樋口、松田、松本）に増えにぎやかに山小屋まで急坂を登っていきました。



集合写真

今回は二回目という事で、前回の「ちよつと体験」から少し違うお手伝いすることを目的に、全体のスケジュールが前回同様西川さんから発表があり、午前中は山の管理作業のお手伝い、昼食後はものづくりをし山中へ散策に向かうことに。山に入る前に小屋の前で収穫した「野蒜（のびる）」、ネギ属の多年草を紹介されました。お昼食べてみま

しよう！と言われ、「道中見つけたら収穫してみてください」に張り切って山中へ。

川のせせらぎに自生している「野蒜」を摘みながら作業場へ到着すると、伐採された大木がごろごろ。小屋の周りにはベンチ用とその大木を小屋まで降ろす作業だったので、これが思った以上に大変で一本で引きずりおろし、簡単な作業も自然相手だとこうも大変かと感じました。

山道移動中に斜面から



「ただいま、調理中!!」



「見晴らしも最高!!」



ちよこちよこ顔を出していた「たけのこ」が気になり「探れたらいいなあ」と思っている。実は数日前にたけのこ泥棒が現れ持っていたたけのこを危機一髪、見事捕まえて注意をしたそうです。

既に収穫の時期を過ぎ伸び切ったたけのこも多く収穫は諦めていたのですが、小屋に戻って「たけのこ掘りたい！」と女性達の声に急遽たけのこ掘体験が加わる事になりました。

たけのこ掘チーム（女性）と当初から予定していた大木を使つての階段作りチ

ーム（男性）に分かれ山のお手伝いを始めました。男性チームでは初体験となるチエーンソーを怖々ながらも使つたのですが、ここで新たに「やんちゃぶり」を發揮したのが稲住さんで、どんだん倒木に足をかけながら登っていき枝をバツサバツサと落としていきました。一方、たけのこ掘チームは鉄を肩に乗せながら大きなたけのこを収穫し悠々と小屋まで戻ってきました。

調理したほうが良いなとなり茹でると、焼きたけのこの準備にとりかかりました。ここで楽しみのお昼ご飯となりましたが、西川夫人がたけのことしいたけの煮物や野菜たっぷりの豚汁までご用意いただきました。また収穫した野蒜を酔味噌につけて食しましたが、やはり旬の食材はおいしいと感激しました。

今回は食事の時間や改め山の話聞くのに時間を費やしたのでクラフトは中止し、食後の運動に山登りをする事になりました。前回同様山の中腹から見下ろす大阪平野はすばらしく話題の「あべのハルカス」も一際高く聳え建っているのが目立ちました。

季節的に木々からは毛虫等がぶら下がっており、気がつけば前を歩く人の背中に帽子の上に、あらゆる所に小虫がついてこれもまた自然なのですが苦手な方には少し刺激が強いようでした。

山道ではちよつと気を緩めると転倒や足を滑らしヒヤツとする事も多く、今回もいろいろとありましたが何とか無事遠足を終了する事が出来、「生駒いいもり里山」の西川夫婦には本当に感謝しています。

さてこの二回の遠足を体験しいろいろな可能性がある事が確認できましたので、これから「生駒いいもり里

山サポーターズ」との協力のもと、ものづくりを通じて自然を体感出来る催しを企画していければと思います。

二〇一四年五月三十一日

### つどい集会を開催

本年度は「つどい」が動き出したばかりでこれまであったふくてっくの部会を集約した形で、「何でもできる、楽しく活動しよう」を掲げてなんとか一年が経過しました。

集会と言いながら活動については熱く語りながらも、脱線ありの座談会的要素も強く、気さくにコミュニケーションが取れればと思つているのですが、本当に会員のみなさんはしゃべる事が好きな様で予定の時間等お構いなしで長時間に及ぶ事もあります。少しの潤滑酒もあり口論ありの意見交換は大変有意義なものとなつており定例会では見れない「本心」が垣間見られることも。

これからは誰でも参加でき、誰でも遠慮なく発現できる「つどい」を目指し集会を続けていきます。

(小川 忠雄)



# 地域生活支援センター「かーさ」 見学会

## 建設の理由

社会福祉法人まつのみ福祉会の利用者と保護者は高齢化してきており、また、現在ホームとして利用している府営団地でも、他住民とのトラブルを抱えていることから、法人には独立したホームの建設構想が数年前からありました。

## 建物の特徴

大和川河川敷のすぐ横というロケーションなので、居室のベランダから大和川の開けた景色が望めます。建物中央に吹き抜けを設け、各階に採光が取れるようにしました。吹き抜けも、最下階は客土を敷き樹木を植えられる様にしました。

## 苦労話など

計画時に、職員の方々に様々な意見を出して頂き、出来るだけ盛り込んだつもりです。今のところ、計画に関しての不満等は耳に入ってきていませんが、使用していく上でどのようなトラブルが出るか心配です。

## 見学会感想

四月二十八日曇り空のもと地域生活支援センター「かーさ」を十名で見学しました。まず、屋上から・・・具体的な利用方法は検討中とのことでしたが、フェンスは高く、よじ登りが出来ないようにメッシュピッチも細かく、また、室外機置場のフェンスも、めぐりこまないように床まで設置されていて障がい者の方への心配りを強く感じました。三階と二階のケアホームは、暖かく落ち着いた感じの床材と壁で構成されていました。中央に設けられた中庭からの吹き抜けは、光と風と外の様子を運んで来てくれ、上下階の人の気配も感じることでできる空間となっていました。屋上の笠木がとてもシャープでした。「かーさ」には家だけではなく、家族とか家庭という意味もあるようです。設計者としてはいろいろと苦労も多かったのですが、とても素敵な「かーさ」が出来上がっていました。(曾我部 千鶴美)



↑ 南面外観

↓ 1階中庭



(大塚 裕司)

### 建物概要

施設名：地域生活支援センター「かーさ」

建築主：社会福祉法人まつのみ福祉会

設計：大塚建築デザイン室 大塚裕司

構造：鉄骨造 ALC 4階建て (耐火構造)

建築面積：246.85㎡

延べ床面積：771.11㎡

最高高さ：14.50m

用途：1階 相談事業  
ショートステイ  
2・3階 ケアホーム (各階で男女別)



エントランス



東北面外観



# NPO キラリ 1 周年

吉村栄夫

初めまして、平成 26 年度からふくてっくに入会させて頂くことになりました吉村栄夫と申します。入会早々のコラムの掲載で新参者ですがよろしくお願ひ申し上げます。

始めに 4 月の定例会で紹介させて頂きましたキラリ 1 周年記念が皆様のご協力のもと無事終わりましたことをご報告させて頂きます。ありがとうございました。

当日は天気にも恵まれ、汗ばむほど気温も上がり良い熱気に包まれていたと思います。初日はボランティアとして裏方の準備に参加し、食事と展示会場の設営を担当しました。当日のミッションとしては、如何にスムーズに関係者や出演者の食糧を確保し配食することができるか、昼食後の片付けをどれだけ素早く綺麗に行うことができるか、またその間を縫ってボランティアの方達の昼食場所を確保できるかの 3 点でした。幸いチームを組んだ 6 名の連携もよくとれ、滞りなくミッションを遂行することができました。

その後は展示設営に移行し作品の搬入も無事完了したのですが、思った以上に作品の展示レイアウトに時間がとられてしまいました。楽しみにしていた第 2 部の演目に間に合わず、私が所属する生活介護の仲間達の勇士や和太鼓飛龍の演奏を見ることが出来ませんでした。残念。



2 日目は作品の搬出作業のため展示ホールに足を運びました。展示受付担当の方の話では、この 2 日の間に展示品を譲って欲しいと申し出られる方も数名おられたと言うことで、大変驚きました。予定通り行かなかった初日と改めて作品の価値を見直すきっかけになった 2 日目で楽しい 2 日間になりました。



# 会員コラム

## 新米会員が見た福祉第三者評価

上田牧人



自由闊達な雰囲気魅せられて、今年からふくてっくの仲間入りをさせて頂きました。福祉関係では名の通った存在だと、後から知りました。特別なスキルもないのに大それたことをしたものです。

先日、奈良県内で実施中の福祉施設第三者評価の現地調査に同行しました。社会福祉法人本部や就労支援作業所、グループホームなどを訪問しましたが

いろいろとカルチャーショックを受けました。

グループホームにおいては、一昨年貫地谷しほりさんがブルーリボン賞を獲った映画「くちづけ」のまんまの世界だなあと感慨以外に、世話人さんたちが、どうしてここまでやるんだらうと思うくらい深く関わっている姿が印象的でした。

就労支援作業所では、とても経営が成り立たない条件のなかで、利用者のことを考えると「じゃあやめます」とは言えない現場責任者の苦悩が身に染みしました。

本部での取材からは、法人の取り組みを「運動」としてとらえるか「組織活動」としてとらえるかで、経営主体のなかにも微妙な温度差があるらしいことに複雑な思いを余儀なくされました。

どうもこれまで自分が過ごしてきたマーケティングの世界とは違う原理がここには働いていそうです。福祉の基本価値は人権尊重と社会正義なんだと最近知りました。「正義」なんて口に出すのも恐れ多い言葉ですが、ひょっとしたら、ふくてっくの皆さんのホスピタリティや醸し出す空気感も、案外こんなところに根ざしているのかもしれないと感じたことでした。



## 「あなのお客様との会話」

秋岡 安



客：法人税減税の代替財源で NPO 法人がとぼちちりを受けそうなの？

私：そうですね。政府税制調査会の議論で特定業界等を対象にした優遇措置である租税特別措置法を見直すことになり、その対象に認定 NPO 法人も入ったんです。

客：詳しく教えて。

私：「みなし寄附金」制度の見直しですね。認定 NPO 法人であれば法人税の課税事業から非課税事業にお金を移す場合、利益の半分から二〇〇万円のいずれか高い金額まで経費にできる制度のことです。もちろん普通の NPO 法人にはこの特典はありません。今回の議論は適用を受けている法人数が少ないことが問題とされています。

客：そもそも認定をとるための要件が緩和されて数が徐々に増えてきている状況でしょ。

私：そうですね。それにそもそも課税対象事業で利益をあげている認定 NPO 法人の数自体が少ないんです。ようやく事業型の認定 NPO 法人が出始めたところなんです。

客：寄附金自体の見直しもあるの？

私：そうですね。昨年末の二〇一四年度税制改正大綱に寄附への税額控除のあり方についても総合的に検討するという文言が入りました。

客：寄附金税額控除はなくなるの？

私：まだはつきりはわかりませんが、見直しの議論が出ていっているという情報もあります。

客：そうなんだ。税額控除も始まったばかりなのに。私：そのとおりです。今回の議論では、社会福祉法人の介護事業の収益事業課税も議論にあがっていますよ。すごい時代になってきましたね。

■ H26年1月以降 学習会

- 1月 親睦会 (学習会なし)
- 2月 「平均27.6歳の集団  
/NPOみ・らいずの想いと活動」  
講師：梶谷 礼路氏  
NPO法人み・らいず理事
- 3月 「大阪府福祉のまちづくり  
審議会参加報告」  
講師：西田 多美子氏  
一級建築士事務TMN共同主催室長  
大阪府福祉のまちづくり審議会委員
- 4月 「これからの障がい者地域支援とは」  
講師：清水 明彦氏  
西宮市社会福祉協議会事務局長  
元青葉園園長
- 5月 「高齢者疑似動作体験」  
講師：東大阪部会  
NPO法人 ふくてっく会員
- 6月 「これからの地域支援活動のゆくえ」  
講師：脇坂 博史氏  
大阪市ボランティア・市民活動センター 副所長



■ H26年度 定例会・学習会予定

- 7月5日 (土) 13:30~17:00頃  
会場：自立支援センター「ばあとなあ」新事業所  
学習会：当事者主体の障がい者支援活動  
/ふくてっくの支援プログラム
- 8月2日 (土) 13:30~17:00頃  
会場：ATC・ITM棟11階 Hゾーン  
総会・20周年記念事業

ことば・コトバ

【アンガーマネジメント ～怒りを抑える～】

アンガー(怒り、いら立ち)といった感情を、衝動にまかせて爆発させるのではなく、上手にコントロールして適切な問題解決やコミュニケーションに結びつけること。自分自身の怒りやイライラと向き合い、その要因や傾向を客観的に把握し、自分で抑制できるように習慣づける。職場の人間関係のトラブルなどを背景に、企業からの注目が高まり、社員研修などへの導入も広がっている。

和泉秀子

◆ 外部連携 ◆

- 平成二十六年  
◆一月三十一日  
第9回近畿地区グループホーム・ケアホーム職員研修会に参加。
- ◆二月一八日  
福祉サービス第三者評価機関連絡会に参加。
- ◆三月一六日  
住まいの情報センター「平成二十五年年度タイプアップ交流会」に参加。
- ◆四月二十六日  
特定非常営利活動法人キラリ一周年記念事業に参加

『こうべユニバーサルデザインフェア』  
三月二十三日  
衣(し)・食(しょく)・住(じゅう)・遊(ゆう)から気づくユニバーサルデザインをテーマとした、発表・交流フェアに岡会員が「すべらんうどん」を出店されました。

当会から、稲住、和泉、松田、池畑ご夫婦、樋口、荻田、山本、曾我部がお手伝いに参加。

すべらんうどんは二百杯売れました。

…事務局より…

- ★ 理事会・運営会議 開催状況  
平成二十六年三月一日 運営会議
- ★ 平成二十六年五月十日 運営会議
- ①各部門上半期活動報告と下半期の展望
- ②二十周年記念事業計画進捗状況
- ③広報活動・会員増強計画等
- ★ 親睦会  
平成二十六年三月八日 Ohana食堂にて カニパーティーを開催しました。

NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会(原則：毎月第1土曜日、13:30～)にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費500円です。

- \*会費：入会金/無料
- ：年会費/正会員 10,000円、学生会員 3,000円、通信会員 500円
- \*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>  
メールアドレス [mail@fukutech.sakura.ne.jp](mailto:mail@fukutech.sakura.ne.jp)

